

「人間」であることを休憩する

後藤 みな（筑波大学大学院／理科教育学）

かえるくんとマックス

（原題：Kikkerdril）

- ◆ 種別：DVD（映画）
- ◆ 監督：シモーネ・ファン・デュッセルドープ
- ◆ 製作年：2009 年
- ◆ 製作国：オランダ
- ◆ 発売元：株式会社オンリー・ハーツ
- ◆ 販売元：グラッソ
- ◆ 時間：本編 71 分
- ◆ 音声：オランダ語／日本語
- ◆ 字幕：日本語



©Lemming Films B.V.

あらすじ

六歳のマックスにはかえるの卵を手に入れるというミッションがある。マックスの兄ヤヌスの病気を癒すためにそれが必要なのである。ミッションの遂行途中で、獣医を目指す少女イエッサと出会い、マックスのおばあちゃんの家まで冒険する。ふたりは草原・泥沼・森林の中で、クモ・ネズミ・カタツムリなどを発見する。それら生き物の歩き方を真似して林の中を進む姿が印象的である。果たしてかえるの卵は見つかるのだろうか。小さなふたりが大いなる自然に駆けてゆく冒険物語である。

シーン再現

＜マックスとイエッサが、林の中で見つけた生き物の動きを、

歌いながら体で表現する場面より＞

マックス：見て！シャクトリ虫だ！

マックスとイエッサ：♪シャクトリ虫歩き シャクトリ虫歩き シャクトリ虫はこんな感じ

マックス：クモ歩き クモ歩きだ

マックスとイエッサ：♪クモ クモ クモ クモ歩き

♪ネズミ歩き ネズミ歩き ネズミはこんな感じ

♪カタツムリ歩き カタツムリ歩き カタツムリはこんな感じ

♪トリ歩き トリ歩き トリはこんな感じ

Chapter
1. オープニング／2'40
2. カエルの卵／2'35
3. 動物の世話／7'55
4. お見舞い／8'37
5. 診察ごっこ／5'15
6. 町外れへ／10'23
7. ふたりの冒険／4'37
8. 友情の証／4'54
9. ケンカ別れ／5'42
10. 仲直り／7'10
11. ピクニック／6'58
12. エンディング／4'52



公害問題や地球環境問題が明るみに出て久しく、またその報道は枚挙に暇がない。例えば宮沢康人は、これまでの教育が自然環境を軽視してきたことを指弾する。西洋近代に起源を持つ教育学は、その自然環境の認識が希薄だったのである。これを継承する今日の教育では一幼稚園からすでに一目下の問題に

関心が払われるばかりで、持続可能な未来へ向かう長期的課題の対応が無視されている。

従来の教育を「人間にする教育」と捉え、自然環境と分離した営みだとする今村光章は、持続可能な未来へ向かおうとする『動物性』を再認識する教育を提唱する。今村は、「動物性」を、「自然環境との深い連続性の中に生きている状態のことであり、言語や道具、時間や企図の概念を持たない状況」のことだという。ここでは、「動物性」を再認識こそすれ、決してそれを取り戻すという野蛮な行為ではないことに注意を払われたい。人間は「動物性」を否定することで「人間」になるという見方をもう一度否定するところに、持続可能な未来に向かおうとする教育は存在するのである。

森などの自然が豊かな場所は、『動物性』を再認識する教育の恰好の場といえるのではないだろうか。言い換えるならば、これらの場所は、「人間」であることを休憩する契機が備えられている。「かえるくんとマックス」において、マックスとイエッサは、森の中で「人間」であることを休憩し、動物になりきる場面がちりばめられている。例えば、林の中でふたりが動物の歩き方を真似るシーンが印象的である。マックスは、シャクトリ虫がその体をくねらせて移動する姿を発見し、イエッサとともに背中を丸めたり伸ばしたり、腕を曲げたり伸ばしたりすることでその存在になりきろうと試みる。クモの歩き方を見たときは、膝を曲げ、手を地面につけてそれになりきろうとする。ネズミの場合は、両手をあごの下にくっつけ身を縮めるようなポーズをし、ジグザグに走る様子が映されている。このように、マックスとイエッサはかえるの卵を探すことに没頭し、「人間」であることを休憩している。

ところで、森などの自然豊かな場所で保育を行う森のようちえんもまた、「人間」であることを休憩する場として期待できる。森のようちえんの子どもたちは、植物に触れたり、野生動物を発見したり、さらにはマックスとイエッサのように動物の動きを模写したりして、「人間」であることを休憩し、「動物性」を再認識する。これらは、「人間にする教育」からは無駄な行為であるかもしれないが、持続可能な未来に向かおうとする『動物性』を再認識する教育から見ると、大変興味深く映る。「人間」であることを休憩すること、これを「触媒」と位置づけて、持続可能な未来という長期的課題に取り組む。その時、その先に在るのはどのような未来なのだろうか。胸の鼓動が加速していく。

持続可能な未来、という長期的課題を考える。

Information

【書籍】

- ・今村光章『森のようちえん 自然の中で子育てを』開放出版社、2011年。
- ・宮澤康人『近代の教育思想』放送大学教育振興会、1993年。